



八王子国際協会にて、外国につながる小学生の学習支援を行っている様子



事前学習にて、各自の参加動機の共通点と違いをグループで共有した



スープの会の活動にて、路上訪問の際に手渡すお味噌汁を地域の方と共につくっている様子

ボランティアへのはじめての一步

1 dayボランティア

2017/11/12~

12/10

1 dayボランティア

11月12日から12月10日にかけて、「1dayボランティア」という取組を実施しました。この取組は、「ボランティアに関心はあるけど、一人で始めるのは不安…」「継続できるか心配」といった人に対して、“1日”お試し体験を通して、ボランティアへのはじめての一步を踏み出してもらうことを目的としています。参加者が自分の関心に沿った活動先を6つの分野の中から選び、1日体験のボランティア活動を行いました。体験に加えて、事前・事後学習もセットで行い、ボランティア活動について学んだり、体験したことを振り返ったりする機会も設けました。期間中合計14人の学生が参加しました。また、本学の学生コーディネーターが主体的に企画・運営に関わり、活動先との調整や、活動に同行し、サポートを行いました。

加えて、この企画は、東京都教育庁と連携し、本学の学生のみならず、都内の都立高校の生徒にも呼びかけ、3人の高校生が参加してくれました。

・活動前に事前学習

ボランティアとして活動先に向かう前に、ボランティアについて考え、自身の動機を明確にしたり、目標を立てたりするための事前学習を行いました。本学の社会福祉分野の室田先生に講師をご担当いただき、「ボランティア活動をやろうと思った動機」・「今回のプログラムの社会性／公共性」などについて考えました。大学生と高校生が一緒になり、活発な意見交換がなされていました。他者の考えを聞くことにより、共通点や違いなどを感じ、より自分の動機や考えが明確になったようです。最後は、「首都東京をどのような

街にしたいか」「その中に自分をどのように位置づけたいか」について述べた「ボランティア宣言」を作成し、それぞれ発表しました。



室田先生による事前学習の様子

・ボランティア活動と感想

事前学習の後は、各自、活動先での1日ボランティア活動です。子ども、国際交流、環境保全、高齢者・地域、路上生活者支援、スポーツの6分野があり、それぞれの活動先で精一杯ボランティア活動に取り組みました。

【子ども】

子ども分野では、昨年と同様に愛宕小学校で活動をさせていただきました。活動内容としては、授業のサポートと放課後の遊びのサポートという二つのプログラムがあり、高校生2人と学生コーディネーター1人が2つの内のいずれかまたは両方に参加しました。私自身は遊びのサポートをしたのですが、子どもたちが自分たちで考えて遊ぶ様子が多々見られたので、彼らに任せるというスタンスで活動に臨みました。ただ遊ぶだけでなく、子どもたちはその中で、遊び方や同世代の仲間との関わり方など多くのものを吸収して

います。こうした場面を見ることで、子どもたちの学びはあらゆる場所にちりばめられているということを感じることができました。

学生コーディネーター 丹羽杏輔

【国際交流】

私は去年もここで活動しており、今年で2回目のボランティアになりました。今年はとても静かな子どもの担当になり、漢字の宿題を見てあげるという活動内容でした。気まずい時間はある程度ありましたが、最後の方は打ち解けられて、よかったです。

また、去年知り合った高齢のボランティアの方と今年も会って話すことができました。国際的に、多代的に、様々な人と交流できるボランティアだと思います。

また、一緒に活動した友人が私より子どもとの接し方や仲良くなるのに長けていて、「ことわざカルタ」を楽しそうにしていました。ただただ羨ましかったですし、そんな姿から、自分も見習ってきたいと思いました。

学生コーディネーター 印出井直希



子どもに勉強を教えている様子

【環境保全】

環境分野は、「JUON（樹恩） NETWORK」が活動先でした。奥多摩の森において、これから森と共存をしていくにはどうすべきか、森林保全とはなにかということを実体験を通じて理解する活動に、高校生1人が取り組みました。森や森林保全についてのレクチャーの後、道具の説明や使い方を学び、実際に道づくりなどの活動を行いました。参加者からは「里山の現状を学び、関心が高まった。楽しかったので、また活動したい」という感想が聞かれました。



路上で生活している方を訪問し、お話ししている様子

【高齢者・地域】

高齢者・地域の分野では、「みなみおおさまカフェ」を実施している「&TMU」が活動先でした。この日は、「大学と地域、共助のまちづくり」をテーマにしたシンポジウムの運営サポートを行い、「みなみおおさまカフェ」を初めとした様々な学生と地域の交流事例を学ぶことにより、相互に支え合う地域をつくるために、自分たち学生に何ができるかということを考えました。参加者からは、「地域に開かれた大学という点では、首都大はまだ課題があると感じた。もっとこういう取組を広げていきたいし、知ってもらえることでつながりができていくのではないかと思った」という意見がありました。今回の活動を通して、首都大生として、地域づくりを自分事として捉えている様子が印象的でした。

【路上生活者支援】

路上生活者支援の分野は「スーブの会」の活動に参加しました。14時から風まちサロンでお味噌汁づくり、19時から路上訪問を行いました。風まちサロンでは、お味噌汁をつくりながら地域の方々や自分のこと、話題のニュースなど幅広いテーマで楽しくお話ししました。ふらっと立ち寄って話ができる、そんな温かな場所が地域にあることの安心感を強く感じました。路上訪問では新宿駅付近で暮らす路上生活者の方にお味噌汁を渡し、お話をしました。人と人とのかかわりが希薄な印象がある新宿という場所に、つながりをつくるスーブの会の活動に参加できたことは、とても大きな経験になりました。活動を通して、お味噌汁を渡すことが目的ではなく、それはただのきっかけに過ぎなくて、本当に必要なことはつながりをつくることだと気づきました。路上生活者の方との会話は他愛もない話が多かったです。しかし、もし本当に困ったときに手を差し伸べられるようにつながりをつくる。そんな環境をつくるのが大切だと感じました。活動した先に見えるものがある、考えるべきことがあると感じられた活動でした。

学生コーディネーター 神保彩乃

【スポーツ】

スポーツ分野ではプロバスケットボールチーム、「八王子トレインズ」の試合に行き、スタッフとして活動しました。会場準備や受付作業、試合中のモップ掛けなど、試合に必要な不可欠な役割を任せていただきながら、ゲームを支え、つくりあげていくメンバーの1人になると、貴重な経験の機会となりました。また、参加した学生の中には、スポーツならではの白熱した空気感や、一体感を感じ、今までバスケットボールをあまり知らなかったけれど、もっと知ってみたい、やってみてみたい、観に行ってみてみたい、といった感想を抱かれた方もいました。受け入れ側の方からは「また参加して、バスケの楽しさをもっと知ってほしい。広めてほしい」との声をいただきました。

学生コーディネーター 大貫真奈

・活動を終えての事後学習

全ての活動が終了した後、再び全員で集まって事後学習を行いました。活動を振り返り、さらに深めることを狙いといた事後学習では、「ココロ（キモチ）」の振り返りと「アタマ」の振り返り、そして事前学習で作成した「ボランティア宣言」の振り返りの3つを実施しました。

「ココロ（キモチ）」の振り返りでは、活動先が異なる学生達でグループをつくり、「最も感情が動いた場面」について述べあってもらいました。「アタマ」の振り返りでは、活動先ごとのグループで集まり、活動の効果や意義を多角的に振り返るワークを行いました。提案した効果や意義は、模造紙にまとめ、班ごとに全員に向けて発表も行いました。最後の「ボランティア宣言」の振り返りでは、活動を終えてからその考え・思いに変化があったか、これからの自分の決意の発表が行われました。

参加した学生たちからは、以下のような感想が挙げられました。

- 活動したことの意味などを客観的に考えることができ、より関心が高まった。
- 他の活動先に行った方の体験や感想を聞くことができ、その中から共通点や新しい発見をしたり、今回自分が行った活動を違った視点から見ることができ、改めて理解が深まった。



事後学習にてまとめた「振り返り」を発表している様子

・まとめ

活動後のアンケートにて「活動に参加して、ボランティアに対するイメージは変わったか」と尋ねたところ、ボランティア活動は、「人のためだけでなく、自分が成長できる」「相手のためだけというような限定的なものではなく、そのコミュニティにとってプラスになる作用があると思った」という声が聞かれた。自分と他者、そして地域といった相互の関係性の中でボランティア活動を捉えることができたようです。

今回の取組では、高校生と大学生が一緒に学び、活動しましたが、このことは非常にプラスの学びの効果があつたように思います。高校生は、とても自然で新鮮な意見や感想を話してくれて、そこから気づくことも多く、それを受け止めた大学生も自身の経験をもとに、また自分らしい言葉を重ねて自然に意見交換している場面が多く見られました。同じボランティア活動をする仲間として、経験を共にし、対等に自然な形で学び合うことで、よりいっそう双方の学びと成長につながったようです。



修了者の集合写真

